

入居者インタビュー

『入居して掴んだものは カメラと水彩画の楽しい人生』

藤村 徹様（78歳）・明子様（71歳）



藤村様にはお子様がなく、ご病気のご両親を看病された経験もあり、将来介護や病気になった時では遅いと思われ、お元気な内にご入居を希望され色々見学をされてきました。今年で入居4年目を迎えられるお二人は、それぞれに始められた趣味でお忙しい毎日を送られています。

〈写真サークルで思いも

よらない楽しい人生に〉

ご主人 「ある日、カメラを下げて旅行に行く姿を見られ、声をかけられたのがきっかけで写真サークルに入る事になりました。

メンバーとの撮影会では、季節を楽しみながら、色々な場所を知りました。外の撮影は、太陽の日差しが時間との戦いで、後悔する事も多く、後日同じ場所に何度も行って撮り直しもし

ました。

そして、毎年一瞬にして消えてしまう花火をどうしても撮りたくて挑戦してはいますが、暗い所で撮る為、カメラに慣れ手際よく撮らないといけないので失敗続きでした。でも、露出を調整して流れや時間差で上がる花火を同時に撮れるので、目で味わえない写真が出来ます。



「湯河原沖のファンタジー」

この作品は、時間差で広がる大輪と小輪を同時に写した、200枚撮った内の1枚で、見ごたえのある満足のいく作品にな

ったかな……（笑）

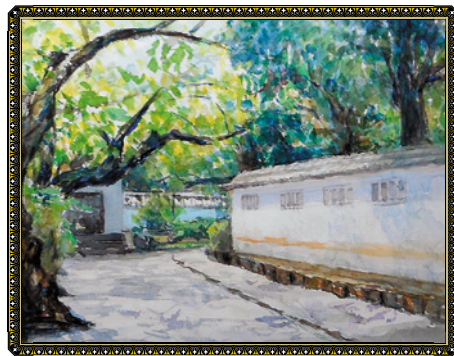
また、月に一度講評の場があるので、絞り・構図・シャッターの速さ・露出補正などのテクニックを伝授され大変勉強になります。重いカメラや三脚を持ち、長時間歩くのも今では苦にならなくなりました。思いもよらないカメラ修行によって、どんどん魅力にはまっています。」

〈水彩画への挑戦〉

奥様 「私は、色鉛筆の優しい絵が好きで描いていましたが、リウマチが進行すると、握力や握り方が困難になり、作業に時間もかかる様になってきました。そこで、一度に塗れる水彩画に挑戦したところ、筆を持つのがとても楽で、タッチも優しく大きな作品を仕上げる希望がもてました。そしてカルチャー教室のスケッチウオーキングがとても好きです。現場の空気、風景の感じや思いが気持ちに入り込んで、筆がどんどん進んでいくんです。長時間描いていると、手が腫れて筆を持つのが辛くなるけれど、リハビリを兼ねて手

を温めながら動かしています。

スケッチは一人では不安ですが、仲間が居ると思うと安心して集中できます。知らない場所に



「真夏の日差し」

出掛けられるので、とても新鮮で楽しいです。今はF2・F4号で描いていますが、F8号の大きさで風景画を描くのがこれからの私の希望です。」

それぞれの趣味を尊重されている藤村様はともほのほのとした素敵なお夫婦でした。いつまでも仲良く、お元気で趣味を楽しみご活躍下さい。

